



# 夢の続きはタイの空に羽ばたくはず

夕 イから帰ってから燃えています。

何年ぶりかで、日本を出たからでしょうか。なぜか昔のこと、それも小学生や中学生のことを思い出します。

僕らの子どもころは、先生に宿直という仕事があつて、順番で学校の宿直室に泊まり込んだものです。今はガードマンか防犯カメラが、その役やってますんですかね。

小学校の担任の先生が、その当番やったとき、母親から「先生にミカンもって行きや」と言われて伺ったことがあります。

そのとき、先生から地球儀を見せてもらいました。

そして「青木、日本はどこかわかるか？ 大阪はどこや？」と質問されて、一生懸命さがわかります。

続けて先生は「大阪なんか小さいやろ。こんなこんまいところで、みんなワアワア言うてる、そんなやめて世界に出て行かな」と言われたんが、今でもよう覚えています。

そやけど、思い出というのは、そんな楽しいものばかりやありません。

中学生のとき、音楽の合唱で「お前は歌うな」と言われて、シヨックを受けたことがあります。僕が歌うと、皆の音が聞こえんようになってしまふらしいです。

僕は、そのころから声が大きかつて、目立たんでしょうなあ。

誰や、ウンウンとうなずいとるのは（笑い）。

母親が心配して「男は家を出たら七人の敵がおる。気をつけな」といいました。

僕は「そやったら、一四人友だちつくればいいだけや」と思っていました。

母親は厳しい人で、いつも怒られてばかりでしたが、あるとき「お前は、明るうてええなあ」としみじみ言われたことがあります。

そのころは、父親の商売もうまくいかず、困ってたんでしょうなあ。今にして思えばですけど……。

## ウチの製品使った飛行機やロケットが空を飛んどののを見るのが夢や

父親は父親で「ウチの製品使った飛行機やロケットが、空を飛んどののを見るのが夢や」とよう言うてました。

おかげさんで、母親の心配も時には当たり、苦しかったこともありましたけど、大勢の友人に助けられて仕事しています。

父親の夢は、(株)アオキの工場が航空宇宙機器開発製造会社であるボーイングの認定工場になったことや、人工衛星「まいどー1号」を打ち上げたことで、かなったのかもしれない。



●(株)アオキ取締役会長  
**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

言わば、先生に見せてもらった地球儀と、ウチの工場の技術がむすびついたんですなあ。

少しは、両親に顔向けできるようになりました。けど、まだまだです。

空への夢、宇宙への夢に加えて、これからは日本のためにもがんばらんといいけません。それで今、夢のためにヘッドハンターやってるんです。

これはタイで、無人の垂直離着陸機を開発するためです。五年前に、僕らは日本で無人機の飛行を成功させました。

このときは、宇宙航空研究開発機構、つまりJAXAと共同開発したものでしたが、電気モーターで、航続時間は一〇分程度でした。

**ドローンの生産は今  
中国が八割を占めています**

ご存知のように、その後、ドローンが普及してブームになりました。

お手軽な値段のこともあり、世間もJAXAも無人機に興味を失ってしまったようです。

ドローンの生産は今、中国が八割を占めています。中国産が世界を牛耳ってるんです。

この方面でも、日本は現状のままだと、どないもなりません。そのためにも、タイと共同の無人機の開発に力を入れたいと思っています。

それで、改めて無人機のスタッフを集めないといけません。



●東京国立博物館では日タイ修好130周年記念特別展が7月から8月にかけて開かれた

今度の改良機は、航続距離を伸ばして一時間で二〇〇キロぐらいを目標にしています。無人機を長く飛ばすためには、当然、電源をなんとかせんといいけません。ソーラーパネルを取り付けられないか、といった検討もやっています。幸い日本では、官でも民でも協力してくれる人がいます。

僕の構想では、日本側は資金と技術、製作そしてデータ管理を担当します。タイ側には人材と工場、飛行場などを提供してもらいます。タイでは飛行場も都合してくれると言っています。

実際、日本で今、飛行実験すること一つとっても、手続きするの大変なんです。あまりにも安全を重視しすぎて、技術開発の停滞を招いているような気がします。

それはともかく、日本タイ国修好一三〇周年を期に、今までの夢の続きは、日本の中小企業の翼が、タイの空に羽ばたくことなんて、かつこええと思いませんか？

ようかい東京のおっちゃん、またウンウンとうなずいていきます。